

技術士 2 次試験に合格して



吉田 ちあき

(よしだ ちあき)

勤務先

北電総合設計株式会社

土木部 公共関連技術室

〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 3 丁目 1-1 北電興業ビル

TEL 011-222-4438 FAX 011-222-4426

E-mail c-yoshida@hokuss.co.jp

■ 専門：建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

1. 自己紹介

1991 年生まれ、室蘭工業大学大学院を修了後、総合建設コンサルタントにて 8 年間勤務し、主に河川構造物の設計業務に携わりました。その後、転職をし、令和 5 年に現在の北電総合設計(株)に入社致しました。

2. 受験の動機

大学在学中、技術士が技術系の最高峰資格であることを知り、室蘭工業大学が JABEE 認定を受けていたおかげで、1 次試験を免除できたのは幸運でした。女性としてのライフステージを考えた時に、「30 歳までには資格を取得したい!」という気持ちがあり、2 次試験の受験資格を得た社会人 3 年目から受験しておりましたが、仕事の多忙を理由に十分な勉強時間を確保できずにいました。令和 4 年、当時の担当指導員の上司が熱心かつ親身に指導してくださったことが転機となり、本腰を入れて試験勉強に取り組み始めてから 3 年経った令和 6 年に、ようやく合格することができました。

3. 技術士試験について

(1) 筆記試験勉強

今回の合格最大の決め手は、担当指導員の上司に恵まれたことです。①私は主に「河川構造物の設計」を担当していたため、河川計画に関する知識が不足していました。上司は河川計画にも精通しており、様々な資料を提供してくださるだけでなく、「このマニュアルは読んでおくと良い」、「ここも抑えておいた方が良い」とたくさんアドバイスをしてくださいました。②本格的に勉強を始めた令和 4 年は、5 月～7 月まで 3 ヶ月という短い期間で試験対策を行う必要がありました。そのため、過去問の傾向を分析し、当時出題されそうな問題の種類を絞り込み、土日も含めて徹底的に論文作成を行いました。(論

文の作成・添削の繰り返しは、上司とのマンツーマンの夏合宿のようで、論文作成に戸惑いながらも、とても楽しく、充実した時間でした。)また、絞り込んだ複数の論文を完成させるため、週に一度、上司とスケジュール確認を行い、学習進捗の管理とモチベーション維持に努めました。③令和 4 年度の筆記試験は残念ながら不合格となりましたが、翌年以降も同様の方法で試験対策を継続しました。幸運にも、これまで試験対策として準備してきた問題と類似の問題が出題され、筆記試験を突破することができました。

(2) 口頭試験勉強

筆記試験を終えた直後、解答内容にいくつか間違いがあり、合格の手応えを感じれなかったため、合格通知を確認した日から口頭試験当日までの約 1 ヶ月間で、集中的に口頭試験対策に取り組みました。

対策として、多くの先輩技術者の方々から貴重なアドバイスを頂き、社内での模擬面接練習や外部講習にも積極的に参加しました。特に外部講習では、他の方の模擬面接を拝見する機会があり、客観的に自身の課題を捉えることができたことなど、大変参考になりました。

本番では、模擬面接通りに話せなかった部分もあり、不安でいっぱいでしたが、無事に合格でき、安堵しました。

4. おわりに

論文添削や模擬面接でご指導を頂いた前職の上司、現職の上司をはじめ、多くの先輩技術者の方々に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

技術士の資格を取得し、新たなスタートラインに立った今、「自分に何ができるか」と自問自答する日々が多くなりましたが、今後も自己研鑽に励み、微力ながらも社会に貢献していきたいと思います。